

質の高い急性期医療の提供を維持・強化 岩見沢市新病院建設基本計画を策定



市は、市民の皆さんから頂いた意見を踏まえ、新病院の具体的な整備の方向性を示した「岩見沢市新病院建設基本計画」を策定しました。
今月号は、その概要をお知らせします。
問合せ 市立総合病院新病院建設準備室（9西7）
☎ 22-1650



市職員が出演して説明します
11月11日(金)
午後5時40分

基本コンセプト
質の高い急性期医療の提供を維持・強化するとともに、南空知医療圏域住民の生活的価値（QOL）の向上を実現する病院

【目指す姿】

- 患者にとってわかりやすく信頼される病院
- 急性期医療や救急医療を中心とする総合的な診療体制を担う病院
- 安全・安心で快適な療養環境を提供する病院
- スタッフが誇りと働きがいを持てる魅力ある病院
- 健全で効率的な経営による持続可能な病院

基本計画策定の考え方

▼新病院に向けた基本的な考え方・目指す姿
基本計画を策定するに当たり、新病院の基本コンセプトと目指す5つの姿を定めました。

▶新病院の重点医療機能（病院像）

- 急性期医療の充実**
急性期医療提供体制の充実、がん診療連携拠点病院の指定
- 回復期医療の充実**
回復期病棟、心不全・心臓リハビリテーションセンターの設置
- 専門医療の充実**
小児・周産期医療提供体制の充実、精神医療や透析など専門医療の維持
- 救急医療の充実**
HCU(高度治療室)・SCU(脳卒中集中治療室)の設置、二次救急の機能の充実
- 災害・感染症医療の充実**
災害医療提供体制の充実、新興感染症などに対する体制の強化
- 地域医療連携の推進**
地域の医療・介護・福祉機関との連携・機能分化による地域医療の維持

病床数内訳

一般病床	388床
急性期一般病棟	310床
HCU(高度治療室)	12床
SCU(脳卒中集中治療室)	6床
緩和ケア病棟	20床
回復期リハビリテーション病棟	40床
精神病床	70床
感染症病床	4床
合計	462床

▼新病院の施設規模

新病院の病床数は、入院患者数がピークとなる新病院開院当初(令和10年度)を想定した合計462床とし、計画延床面積は、近年建設された同規模病院の事例を参考に、病院部分の1床当たり延床面積を85平方メートルと設定した4万平方メートル程度としました。

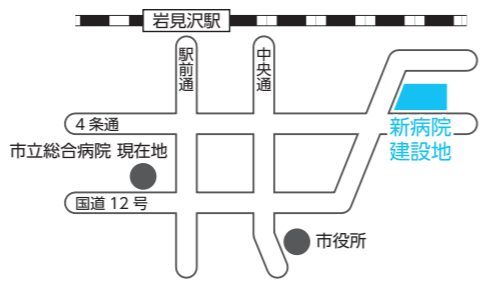
施設整備計画

▼施設整備方針

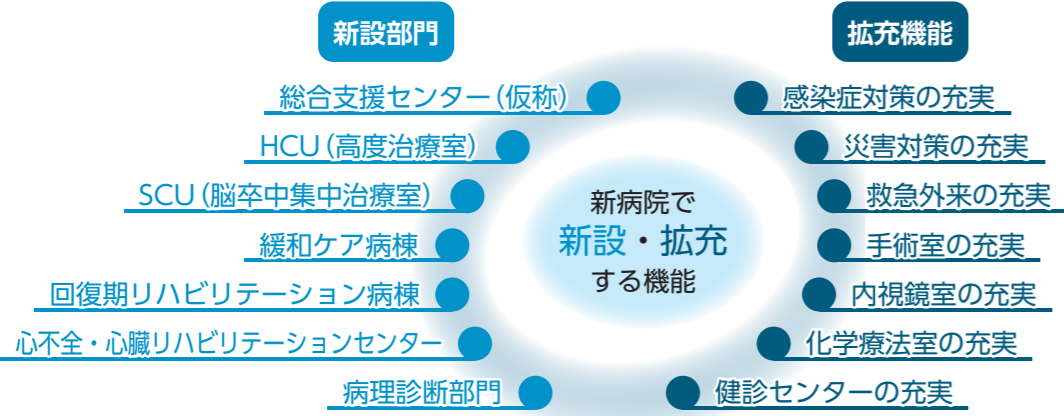
新病院の施設を整備するに当たり、5つの方針を定めました。

▼建設地

災害発生時や救急搬送時のアクセス確保において、国道に面した立地の優位性が高いことから、北海道中央労災病院用地に決定しました。



新病院で
新設・拡充
する機能



▼新病院の診療機能

臓器別・疾病別などで分かりやすく細分化した28診療科に再編するとともに、急性期や二次救急を担う医療機関としての機能を強化するため、7つの部門を新設、7つの機能の充実を図ります。

ひょうぼう 標榜診療科(28科)

総合診療科	緩和ケア内科	整形外科	脳神経外科
内科	小児科	産婦人科	皮膚科
呼吸器内科	外科	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	放射線診断科
循環器内科	呼吸器外科	眼科	放射線治療科
消化器内科	血管外科	泌尿器科	リハビリテーション科
糖尿病内科	人工透析・腎不全外科	精神神経科	病理診断科
腎臓内科	乳腺外科	麻酔科	歯科口腔外科

施設整備方針

- 【患者や家族など全ての利用者にやさしい施設】**
ユニバーサルデザイン、効率的な動線、プライバシーやセキュリティへの配慮、利便施設の充実
- 【災害や感染症に強い安全・安心な施設】**
大規模災害や感染症のパンデミック発生時にも医療機能を継続できる建物配置・構造・設備
- 【職員が能力を発揮できる働きやすい施設】**
ICT※ /IoT✧・AI□・RPA✦の導入、教育・研修機能、院内保育、アメニティ機能の充実
- 【将来の変化に対応し地域医療を守る施設】**
柔軟性や拡張性に配慮した建物構造、全面建替スペースを確保できる配置
- 【経済性と環境に配慮した施設】**
施設整備費やライフサイクルコストの縮減、自然エネルギーの活用、省エネルギー化

- ※ Information and Communication Technology の略称。通信を使ってデジタル化された情報をやりとりする情報通信技術のこと。
- ✧ Internet of Things の略称。あらゆるモノがインターネットにつながる状態、もしくは技術のこと。
- Artificial Intelligence の略称。さまざまな知的能力を人間に代わってコンピュータに行わせる人工知能のこと。
- ✦ Robotic Process Automation の略称。データ入力や転記、確認などのコンピュータ上で行う定型的な単純業務を自動化すること。

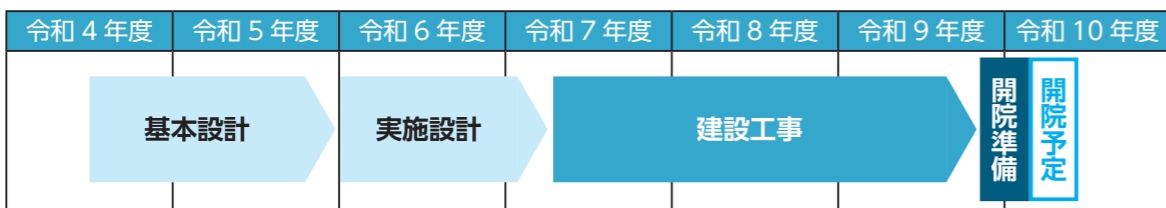
整備手法とスケジュール

▶ 整備手法

● 施工者を早期に確保するため、実施設計段階から施工者が技術協力で参画する「ECI方式」を採用

▶ 整備スケジュール

● 竣工後3カ月以上の開院準備期間を確保し、令和10年春の開院を目指す



院内で快適に過ごせるよう、コンビニエンスストアや喫茶スペースなどを整備し利便性の向上を図ります。また、院内MEI環境の整備や癒し・安らぎを提供するホスピタ

▼ 共用・利便施設

新病院内に併設し、病院内の検査・画像診断機能を活用して健診・検診機能を強化します。

▼ 健康診断部門

新たに院外処方を導入し、病棟薬剤業務や入院時支援など、対人業務を充実します。

▼ 薬剤部門

※術中・術後感染のリスクを最小限にするため、高性能のフィルタを通して空気を清浄化した空調などにより、微粒子や細菌を飛散させないよう、高い無菌性を保持した手術室のこと。

▼ 手術部門

バイオクリーン手術室[※]、日帰り手術室を含む全7室を整備するとともに、手術支援ロボットによる内視鏡手術など、低侵襲で安全な手術を実施します。

ブロック方式（関連性の高い複数の診療科をブロック化）を採用し、中央処置室、採血室を設置します。また、プライバシーに配慮した診察室にするとともに、分かりやすい表示や動線に配慮します。

部門別の計画（抜粋）

▼ 外来部門

民間賃貸住宅の借上げで対応するとともに、院内に医師当直室を充実させて整備します。

【市立栗沢病院】

老朽化した病院施設の再整備に向け、必要な医療機能、適正な規模を検討します。

【職員宿舎】

民間賃貸住宅の借上げで対応するとともに、院内に医師当直室を充実させて整備します。

【院内保育園・病児保育施設】

働きやすい職場環境の提供や病児の容体急変時に対応できるように、新病院と同時移転します。

源を有効に活用し、受診者の利便性を確保するため、新病院と同時移転します。

概算事業費内訳

費目	概算費用
設計・監理費	14.6 億円
建築工事費	242.8 億円
外構工事費	5.2 億円
解体経費	11.9 億円
医療機器	45.0 億円
什器備品	5.0 億円
情報システム	14.2 億円
事務費など	3.3 億円
移転費など	2.0 億円
全体事業費	344.0 億円

新病院建設事業の概算事業費は344億円です。安定した病院経営を維持するため、可能な限り事業費を縮減するほか、財源には企業債や国・北海道の補助金を最大限活用します。

▼ 概算事業費と財源

事業収支計画

アルバイトの導入を検討します。職員が働きやすい環境として院内保育園を整備し、定員の拡充を検討します。

▼ 事業収支シミュレーション

開院2年目までは、移転費用や減価償却費などの影響で赤字となりますが、3年目以降は黒字化し、経営が安定する見込みです。将来的には、医療需要の変化に応じて規模を見直すなど、持続可能な経営を維持していきます。

今回策定した基本計画を基に、これから設計、建設工事へと事業を進めていくこととなります。市は、今後も関係機関との協議・検討を重ねるほか、市民の皆さんの意見を伺いながら、新病院の建設に向けた取り組みを進めていきます。

基本計画は、市立総合病院事務部、市役所本庁と北村・栗沢両支所および有明交流プラザの情報公開コーナー、または市立総合病院ホームページで見ることができます。



市立総合病院のホームページに、新病院建設に関する最新情報を掲載しています



関連施設の方向性

【市民健康センター】
健診機器や人員の限られた医療資

▼ 駐車場

患者・来院者用や職員用など、1千台程度の駐車場を整備します。

▼ 施設の構造

災害発生時にも患者や職員の安全性を確保し、診療機能が維持できるように、免震構造とします。

▼ 新病院の設備

- 災害時に備え、最低3日間分の電力・給水を確保
- 低炭素化やライフサイクルコストの低減に配慮
- 空調設備を整備し、快適な療養環境を提供
- 院内MEI環境の整備による、利便性の向上
- 一般用・職員用など用途別のエレベーターを整備
- 防犯カメラの設置やICカードによる出入り管理などのセキュリティ対策
- エネルギー供給や設備の保守管理を一括して外部事業者へ委託する、エネルギーサービス事業の導入を検討

▼ 外来部門

民間賃貸住宅の借上げで対応するとともに、院内に医師当直室を充実させて整備します。

【市立栗沢病院】

老朽化した病院施設の再整備に向け、必要な医療機能、適正な規模を検討します。

【職員宿舎】

民間賃貸住宅の借上げで対応するとともに、院内に医師当直室を充実させて整備します。

【院内保育園・病児保育施設】

働きやすい職場環境の提供や病児の容体急変時に対応できるように、新病院と同時移転します。

源を有効に活用し、受診者の利便性を確保するため、新病院と同時移転します。

ブロック方式（関連性の高い複数の診療科をブロック化）を採用し、中央処置室、採血室を設置します。また、プライバシーに配慮した診察室にするとともに、分かりやすい表示や動線に配慮します。

▼ 病棟部門

プライバシーの確保やアメニティの向上など療養環境に配慮します。また、急性期一般病棟は、最低でも3割以上の個室率を確保し、緩和ケア病棟は全個室、回復期リハビリテーション病棟は1割程度の個室率、精神病棟は8室以上を個室とします。

▼ 救急部門

二次救急に特化した24時間救急診療体制を充実させ、救急搬送はすべて救急外来で一元的に受け入れられます。また、感染・発熱外来を設け、専用出入口や診察室の確保など、患者の動線を分離します。

▼ 総合支援センター（仮称）

メインエントランスに近接した場所に説明ブースや相談室を整備。入院退院支援と相談機能を一元化し、患者や家族を総合的に支援します。また、再来患者がより利用しやすいよう外来予約センター機能の導入を検討します。

整備・運営計画（抜粋）

▶ 医療機器・什器備品の整備

- 新病院でも継続して使用できる機器の移設や部門間での共同利用により事業費を抑制
- 新病院開院時に投資額が集中しないよう、調達時期を分散

▶ 情報システムの整備

- 電子カルテシステム（平成29年度導入）を令和7年度に更新した後、北海道中央労災病院の情報システムとのデータ統合を行い、新病院でも引き続き運用
- ICT/IoT・AI・RPAなどの次世代先端技術を活用したスマートホスピタルを目指す

▶ 人員の確保など

- 新病院の診療機能・規模や医療体制を実現するために必要な医療スタッフを確保
- 職員が働きやすい環境の整備